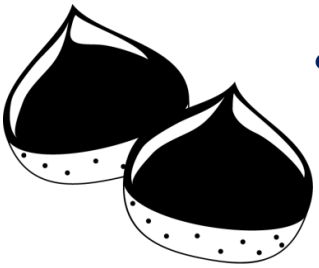
NPO 法人（特定非営利活動法人）

とちのみ支援会



とちのみ

NPO 法人　とちのみ支援会会報
第 14 号　令和元年 6 月 15 日発行

第 3 回とちのみ支援会　元気フェスティバル開催（平 31．3.17）　小矢部市東部公民館



山口裕幸講師による「くすりと健康」

平成３０年度事業報告

月日	事業内容	場所
６月０５日（火）	第２９回健康講座(小矢部市石動中部地区いきいきサロンヤー共催)	石動コミュニティセンター
６月１５日（金）	第１２号会報発行	
７月２２日（日）	第８回青少年健全育成講座	小矢部市東部公民館
８月２５日（土）	会員研修会(一泊)	越中庄川荘
９月２３日（火）	障害者支援施設訪問	障害者支援施設「渓明園」
１０月２０日（土）	第３０回富山県民ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ NPO 大会参加	グランドプラザ
１２月１５日（土）	第１３号会報発行	
２月２４日（日）	第３０回健康講座（手技ボランティア）	ケアタウンとなみ
３月１７日（日）	第３回元気フェスティバル	小矢部市東部公民館

会長挨拶

ノーマライゼーションの推進



会長　　廣田　秀徳

高齢、介護の必要性、障害の有無といった年齢や社会的マイノリティといったことに関係なく、人間の尊厳を重要視して、生活や権利などが保障された環境を作っていく考え方を、「ノーマライゼーション」といいます。広義ではノーマライゼーションとは社会的弱者やマイノリティを含めた人たちに一般市民と同じ普通(ノーマル)の生活や権利が保障されるよう、社会環境・制度を整備することとも言えます。それは従来、障害者や介護の必要な人、社会的マイノリティを取り巻く環境がノーマライゼーションの理念とは間逆の普通でない（アブノーマル）な状況であったからとも言えます。

ノーマライゼーションと類似した言葉で、結構浸透しているのは「バリアフリー」という言葉であります。小さな子供や高齢者、障害者といった社会的弱者の社会参加を妨げている物理的、精神的な障害を取り除くために設備やシステム、制度を整備することです。物理的バリアフリーには段差にスロープやエレベーターをつけることなどがあり、コミュニケーションのバリアフリーには点字や手話通訳があり、言語バリアフリーには観光地における外国人旅行者の利便性を高めることの外国語の看板等があります。

ご存知のように、英語では障害者のことを「disabled people」という言い方はしません。英語では、「people with disabilities」と言い、障害を持つ、あるいは障害と共に生きる人という意味になります。障害はマイナスではなく、個性として捉えて広く社会で受け入れようとする姿勢が伝わり、日本語の響きとは多少ニュアンスが違います。日本では障害者を障碍者と表記する場合もあるくらいです。



さて、今後日本にノーマライゼーションが定着して行くでしょうか？　従来日本の障害者施策における目的は、障害者を施設に収容することでしたが、ノーマライゼーションの概念が定着しつつある今日、健常者と障害者が共に暮らす仕組み、つまり脱施設化を目指す動きが進んでいます。その場合、障害者を地域で受け入れる制度や仕組みが整っているのか、施設を出た後の障害者の社会の受け入れ体制が整っているのかというと、実は非常に難しいのが現状です。健常者と同じ生活を送ることが困難な障害者も多いため、なかなか施設の外に出ていけないという課題もあります。

また、ノーマライゼーションを推進するには、制度作りや財政的な問題を解決する必要があります。つまり政治家の働きがポイントとなる場面が多くありますが、一般的に政治家は、なかなか票に繋がらない障害者政策に関して、積極的に取り組んでいるとはいえません。政治家の意識が障害者に向かなければ、実現可能な具体的政策提言や十分な予算配分といった根幹に係わる部分を後回しにされてしまう可能性が高いのです。



その上、ノーマライゼーションが抱えている問題として、一般的にこの理念や概念が浸透していない

という現状です。障害者問題に関わっている人や福祉関係の仕事に就いている人、会社で人事の仕事に携わっている場合には、知識や理解があるでしょう。しかし一般社会でノーマライゼーションといった場合、「言葉を知っているけれど実質のところはよくわからない」とか「初めて聞く言葉」といった反応が相当あります。



このように、地域や社会の仕組みや環境的問題、理念・概念の浸透をどう超えていくか等の諸問題は、私たちNPO法人等が関わらなければならない分野だと思います。障害者は身体的精神的ハンディを持っていますが、人間の尊厳としては健常者と変わりがないのですから、普通の生活をする権利があるのです。NPO 法人が係わることによりノーマライゼーションが進展して行くことでしょう。

雑　　感

高齢者及び心身体障害者との交流

相談役　　小寺　一夫



去る５月１８日、私達とちのみ支援会では知的障害者の皆さんの外出支援活動を実施しました。彼らと一緒にマイクロバスに乗り障害者のスポーツイベントに参加するために、富山市内の八尾スポーツアリーナに行きました。そこには、県内各地から多数の障害者及びサポーターの人達が集っており、一緒に運動をしたり、ゲームやジャンケンをしたりして楽しみました。



八尾スポーツアリーナで行われた障害者との交流イベント―写真はゲーム「ホールインワン」

司会者は落語家の三遊亭好太郎さん、民謡歌手の江島ちあきさんで、その場を和ませたり、盛り上げたりしながら進行して、途中には本職の落語、民謡を聞かせて頂き、司会者も参加者も共に感動しました。自分が支援したことはトイレに行きたいという方の同行と、一緒に弁当を食べて話をしたことぐらいですが、帰りのバスの中は少しいきいきとしていた様に思います。

最近は、想像のしないような事件・事故が多発しています。私は、スマートフォンでゲームをするということが一番よくない事のように思います。目が悪くなり、姿勢も悪くなる等良い事は一つもありません。



また健康増進のため、健康ウォークの日にイベントに参加すると言うのにその場所まで車で行く人がいます。あきれてものが言えません。

そんな中で、朝乃山の優勝は富山県にとって明るいニュースでした。私たちの暗い気持ちを一新してくれました。来場所は厳しい場所になると思いますが、必ず、期待に応えてくれると信じています。

第３回元気フェスティバル開催　平成31年3月17日(日)
小矢部市東部公民館



第一部　講師　山口裕幸　演題「くすりと健康」



健康寿命とは健康に問題なく日常生活が送れる期間の事で、その健康寿命を延ばすための対策としてメタボ対策、ロコモ対策、認知症対策について触れた。
（健康寿命の全国平均は男性72.14歳、女性は74.77歳）
具体的には食べ過ぎないこと、引き算しながら歩くなどの運動することなど紹介された。
また、薬を飲むときの約束事について、毎日決まった時間に飲む等８項目についても説明された。





第二部　講師　田川春朗　演題「健康に長寿を保つには」







健康寿命延伸へ
元気フェスタ
小矢部

NPO法人とちのみ支援会（小矢部市）の元気フェスティバルは17日、同市東部公民館で開かれた。薬剤師で公認スポーツファーマシストの山口裕幸さんが「くすりと健康」と題して講演し、会員ら約20人が健康寿命の延伸に理解を深めた。

山口さんは「昔を回想したり、暗算しながら散歩をしたりすることで、認知症の進行を遅らせることができると言われる」などと述べ、メタボリック症候群やロコモティブシンドローム（運動器症候群）の対策の重要性も指摘した。

同会の田川春朗顧問が「健康に長寿を保つには」と題して語った。

講演する山口さん
＝小矢部市東部公民館

富山新聞の 3 月 18 日号に掲載された



雑　　感

木喰さんの時空を超えた仏像

副会長　　原田　淑子



木喰さんをご存知ですか？数年前にもＮＨＫで特集を組んでおられて、とても、心に残っていました。ところが、偶然、再び、日曜美術館という、これも、やはり、ＮＨＫで再放送でしたが、やっており、「えっ」と思い、目が離せなくなくなりました。映像なのに、木喰上人の彫られた、それも 300 年もたった仏像なのに、ありがたくて、涙が出てしまいました。綺麗なお寺にある一般の仏像ではありません。ほっとする、親しみのあるお顔、そのお顔の微笑がいいのです。



木喰上人自刻像

是非とも、ネットで検索してみて下さい。田舎の青年が、どういう訳か、出家して、300 年の昔、80 歳を越えてもなお、行脚し、仏像を作り続けて、3 メートル近いものも作られたとか。不思議な微笑み、直に、見てみたいものだと思いました。北陸にも、北海道、四国にも行かれ、大雪の東北は何度も廻られたようです。弥勒菩薩の微笑も言いかも知れませんが、お母さんのおおらかな笑顔が感じられたから、私の心に残っていたのかもしれません。

雑　　感

とちのみ会で一緒にボランティアを

総務部長　　野原　直人



NPO 法人とちのみ会ではボランティア活動を幅広くおこなっております。青少年健全育成から高齢者まで、介護施設訪問から知的障害者の外出支援等もおこなっております。

先日も知的障害者のスポーツイベントに参加するための外出支援に同行しましたが、当日も、また、これからもまだまだたくさんのボランティアの共助が必要な彼らであることを感じました。そんな中で、出演者が民謡歌手で一曲歌いますから皆さん一緒に踊ってくださいと言ったら、なんのためらいもなく多くの障害者の方が大勢踊りだす光景がありました。健常者ではもじもじすることが多くありますが、彼らの天真爛漫なところには驚きました。

また、最近、元事務次官であった父親が、ひきこもりの息子を殺害した事件は真に痛ましい出来事でした。事件の発端は数日前に起こった、通学用のバスを待っている児童をいきなり殺害した後自殺したニュースを聞き、今起こっている家庭内暴力がこのような事件を引き起こしかねないと将来を案じ殺害したらしいのです。歯車が狂いだすと恐ろしい結末を招くのです。繰り返しになりますが、悲しい、痛ましい事件でした。

現代社会は、家庭内も社会も多くの問題が複雑に絡み合って混在しており、すべてを解決することはできませんが、健常者として今出来る事をやっていきたいものです。



活動報告　とちのみ支援会の活動を紹介します(2018年12月～2019年5月)



２月健康講座（手技ボランティア）（ケアタウンとなみ）



２月健康講座（手技ボランティア）（ケアタウンとなみ）



２月元気フェスティバルについて打合せ（ケアタウンとなみ）



５月通常総会（小矢部市東部公民館）



５月知的障害者外出支援（渓明園めるへん前）



５月知的障害者外出支援　風船バレー（八尾スポーツアリーナ）

活動報告

とちのみ支援会からのお知らせ

▼草刈・有料ボランティアのお知らせ

ＮＰＯ法人とちのみ支援会では、地域の皆様の暮らしに少しでもお手伝いができればと、この夏から有料の草刈ボランティアを始めます。当会の趣旨に賛同してくださった砺波市庄川町在住の西川利昭さんが、皆様の庭などの草刈を有料で行います。西川さんはプロの業者ではありませんので、その点はご承知ください。一回の作業につき、4000 円から 5000 円の料金を考えています。お値段については、西川さんと直接やりとりしてください。草刈の作業は原則、土、日ですが、西川さんの予定が空いていれば、平日の夕方などでも可能です。



西川さんの連絡先電話番号は、090-1393-8587 です。頼みたい方は直接、西川さんに電話してください。お願いします。

▼知的障害者外出支援ボランティアのサポーター募集



ＮＰＯ法人とちのみ支援会では、知的障害者施設「渓明園めるへん」の利用者さん(知的障害者)の外出を支援するボランティアを実施しております。今年度は５月のスポーツイベントに参加するために実施いたしましたが、次回８月に予定があります。(日時場所未定)

つきまして、外出支援ボランティアのサポーターを募集しています。サポートする内容は、随行する職員の補助、移動時のマイクロバスへの誘導、利用者さん(知的障害者)のトイレへの誘導、交流などです。利用者さん（知的障害者）は外出をとても楽しみにしています。多くのサポーターが必要ですのでご協力をよろしくお願いたします。

連絡先　小矢部市今石動町２丁目 13-13
TEL　0766-67-3899 あるいは廣田（090-1634-5529）まで

▼手技療法の講座開催（東洋医学、ツボ等）受講生募集（無料）

ＮＰＯ法人とちのみ支援会では、定期的に介護施設を訪問し健康講座、手技療法ボランティアを実施しております。そのため、会員の手技の質の向上のため専門家による手技療法の勉強会を毎月定例会の後実施しております。会員以外でも関心のある方は受講可能です。

場所は小矢部市東部公民館です。希望者は上記まで連絡下さい。

編集後記

2019 年５月より平成から、令和と改元されたころはちょうどゴールデンウィークと重なり２度目の正月を迎えたような年末年始の賑わいでした。

少し落ち着いたころに、通り魔殺人や高齢者による交通事故等悲惨な事件事故が続き残念でなりません。

さて会報第 14 号ができました。今回も会員の皆様の積極的な投稿があり、充実した紙面になりました。本会の活動を今まで以上に対社会的にも積極的に広報していきます。（野原記）

令和　元年６月 10 日印刷
令和　元年６月 15 日発行
特定非営利活動法人　とちのみ支援会会報　とちのみ
編集　NPO 法人とちのみ支援会事務局
発行　NPO 法人とちのみ支援会
発行責任者　野原直人
所在地　(〒932-0051)
小矢部市今石動町２丁目 13－13
電話　0766－67-3899
FAX　0766－61-3525